

第48回日本人会定時総会議事録

日時：2018年度4月18日(金) 19:00~21:00
 場所：ホテルニッコーグアム「マゼラン」パーティーールーム

1. 開会宣言 中村 一樹

2. 議長選出

推薦により吉田 隆二氏：前田 道路(株)に依頼

3. 総会成立宣言

法人	104社	1,092票
個人	151人	151票
合計投票		1,243票
委任状を含めた出席数		695票

グアム日本人会、会則第7条代3項に従い、総会の設立が宣言された。

4. 第48回日本人会定時総会での挨拶

グアム日本人会名誉会長代理 尾形 修

日本人会名誉会長の関総領事の名代として、在ハガツニャ日本国総領事館の尾形首席領事より、本年グアムが解放75周年の記念の年を迎えるにあたり、和解について考察したいと述べ、第二次大戦後の仏独の和解を例にとり、通常は勝者である側が優越的地位から敗者を「許す」ものであるのに対し、日本グアム間では、"inafa'maolek"の精神で「共に仲良く共存しよう」といってくれていて、真に対等な和解となっている旨述べた。その上で、この和解が強固で永続的なものとなるよう日本人会と総領事館が協働して、グアム社会に寄与していきたい旨述べた。

5. 会長総括

第27代 グアム日本人会長 関口 雄二

本年度の日本人会の活動を総括させていただきます。詳しい内容は、各部署の担当よりご説明させていただきますので宜しくお願いいたします。

各理事、監事の皆様にはご自身の日常業務に加え、所属部署の活動と秋祭りの実行委員など草鞋を2足も3足も履きながらの多忙な一年であったと思います。

来期は各理事の負担を如何に低減していくかが大きな課題と感じております。

初めに日本人学校の運営をサポートされている教育部です。アクションプランを基に種々の対策を講じ教育環境も整備され、生徒数も増加傾向にあります。しかし、安定した財政基盤の確立には如何せん原資が足りず、今後とも秋祭り、ゴルフ大会などのイベント収入のバックアップが必要となります。

次に青年部が開催した秋祭りは新しい趣向をこらして4万人に近い来場者を集客し大成功となりました。

文化部の担当であるアート&クラフト・フェアはグアム知事をはじめ大勢の地元の皆様にお越しいただき大盛況でした。

商工部はセミナー、座談会の開催で日本人会法人会員に価値ある情報をタイムリーに提供いたしました。

渉外広報部はラッテの編集とホームページの運営、秋祭りのラジオ宣伝などの広報活動で素晴らしい成果を上げました。

日本人会及び日本人学校の会計管理を担当した会計部は

正確かつ敏速な会計処理で財務内容は常に明瞭でした。

総務部は理事会、総会、新年会など会合の開催、義援金の募金、事務局の運営など本会の屋台骨を支えていただきました。

本年度は各部署とも担当理事のご努力で目覚ましい成果を上げ、開催したイベントもすべて成功裏に終了することができました。

部署によって活動の内容は様々ですが、まさに日本人会の目的でもあります日本人コミュニティの発展と日本、グアムの親善、地域社会への貢献を柱としてそれぞれのプロジェクトを推進していただきました。

理事、監事及び事務局の皆様の多大なるご尽力に厚く感謝を申し上げます。

どうぞ会員各位におかれましては、日本人会の活動に格別なご理解をいただき温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりましたが、今年も特別な条件にて日本人会事務局の賃貸契約を継続いただきました山野井インク様のご厚情に深甚の感謝を申し上げ、はなはだ簡単ですが私の総括報告とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

6. 各部報告

教育部 部長 権田 正

1. 日本人学校の安全で、安定的な運営のため

① 日本人学校の種々の行事、会議に参加、参観

月例学校理事会(月1回)に出席
 全日制、補習校、幼稚部の入学式、卒業式への参観
 運動会の参観
 スクールパフォーマンスへの参観
 PTA行事(バザーなどのヘルプ)

② チャリティーゴルフ大会を開催し、日本人学校への寄付金を集めた。

6/24にレオパレスにて開催。78名の参加を頂く。
 協賛金を含め寄付総額約\$8,000

イベントとして、ボーリング大会(1月)が予定されていたが、スケジュールの都合がつかず、準備も滞り、実施できなかった。

③ 日本人学校の安全確保と警備の強化

政府補助金を活用し、警備の向上を図った。
 刺股の購入、事務所入り口ドアの改善、パニックルーム(緊急避難室)仕様にするための整備など

④ 現地採用教員、事務職員の面接と採用

将来を見据えた採用計画とその準備

⑤ 経営の安定化を図るアクションプランの継続と実施

経営安定プロジェクトチームが作成したアクションプランの実施と進捗状況の確認。しかし計画遂行への対応を怠った項目もあったので、見直しが必要。

成果としての児童数の推移

	H.29.4	H.30.4	H31.4
全日制	50	65	71
補習校	88	92	96
幼稚部	17	18	13

毎年多少の増加傾向が見られる。

幼稚部の人数が減少したが、体験入園後の入園が期待できる。